

経済・金融フラッシュ

No.07-124 2007/12/20

貿易統計 07年11月～原油高の影響で貿易収支は4ヵ月ぶりに悪化

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

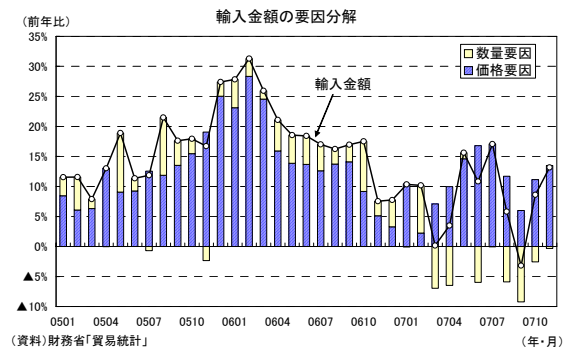
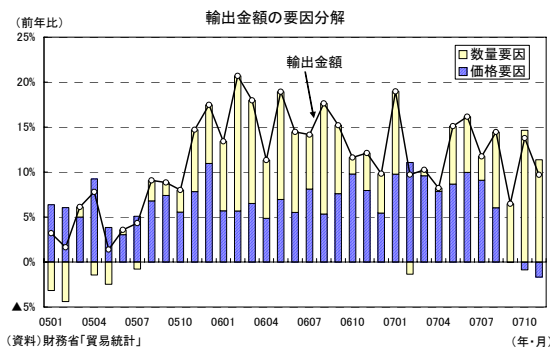
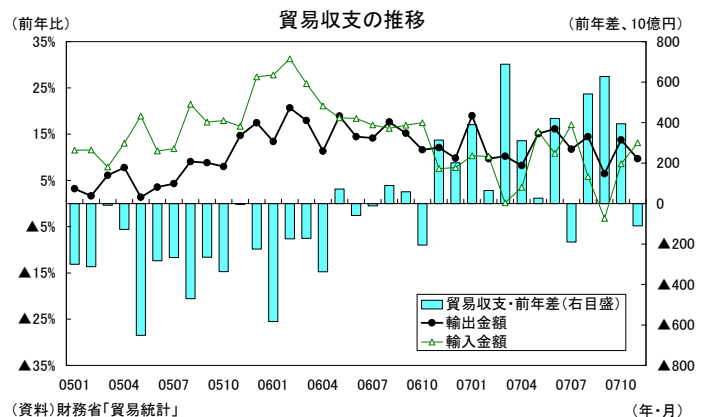
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は4ヵ月ぶりに悪化

財務省が12月20日に公表した貿易統計によると、11月の貿易黒字は7,974億円（前年比▲12.2%）となり、事前の市場予想（ロイター集計：9,175億円、当社予想は8,036億円）を下回った。原油高の影響で輸入金額が膨らんだことなどから、貿易収支は4ヵ月ぶりに前年よりも悪化した。

輸出数量の伸びが前年比11.5%（10月：同14.7%）と前月から鈍化したことに加え、輸出価格が前年比▲1.6%（10月：同▲0.8%）とマイナス幅が拡大したため、輸出金額は前年比9.7%（10月：同13.8%）と2ヵ月ぶりに一桁の伸びとなった。

輸入金額は、輸入数量が前年比▲0.3%（10月：同▲2.4%）と減少幅が縮小したことに加え、原油高の影響などから輸入価格が前年比13.5%（10月：同11.3%）と伸びが高まったため、前年比13.2%（10月：同8.6%）と4ヵ月ぶりに二桁の伸びとなった。

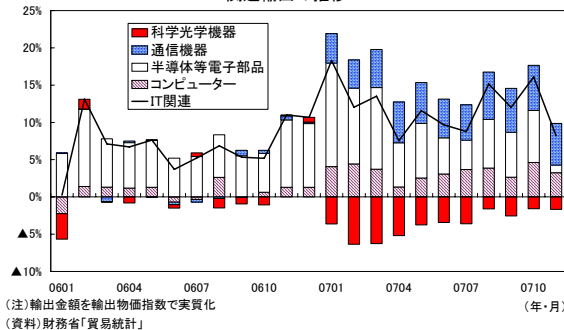


2. 米国向け輸出の低迷続く

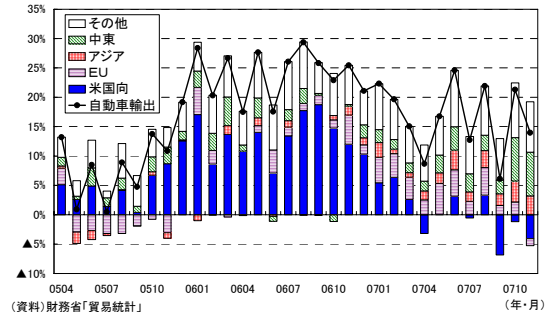
輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、通信機（前年比 111.7%）は引き続き非常に高い伸びとなったが、半導体電子部品（同▲5.9%）科学光学機器（前年比▲10.0%）が減少したこと等から、全体では前月から伸びが鈍化した。国内の電子部品・デバイスの在庫調整はほぼ終了したと見られていたが、この分野は輸出動向に左右される面が強いため、先行きには注意が必要だろう。

自動車輸出は前年比 14.0%と 10 月の同 21.3%から伸び率が縮小した。アジア向け（前年比 50.3%）、中東向け（同 91.1%）は引き続き高い伸びとなったが、米国向け（同▲9.2%）は 3 ヶ月連続、EU 向け（同▲7.6%）は 19 ヶ月ぶりに減少となった。

(実質・前年比) IT 関連輸出の推移



(前年比) 地域別自動車輸出

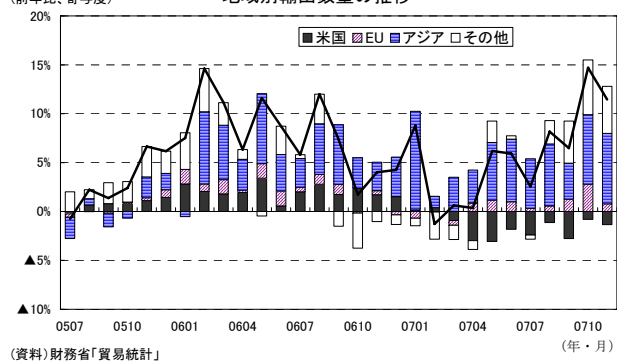


輸出数量指数を地域別に見ると、アジア向けは前年比 14.9%（10 月：同 14.6%）と引き続き高い伸びとなったが、EU 向けは前年比 6.1%（10 月：同 21.5%）、と伸びが大きく鈍化し、米国向けは前年比▲5.6%（10 月：同▲3.2%）とマイナス幅が再び拡大した。

輸出数量の伸びを地域別の寄与度で見ると、米国向けの減少をそれ以外の地域向けの増加が大きく上回る形が続いており、特に、中東、ロシアなど、主要 3 地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向けの輸出の好調が際立っている。

当研究所では、10-12 月期の米国経済は、住宅投資の減少継続や個人消費の減速などから年率 1%割れの低成長を予測している。当面は、米国向け輸出の低迷をその他地域向け輸出の増加がカバーする形が続くことが予想されるが、米国経済の減速が本格化すれば、世界経済の成長鈍化も避けられないため、輸出全体の伸びは鈍化傾向が続く可能性が高いだろう。

(前年比・寄与度) 地域別輸出数量の推移



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)